ヨコハマヘリテイジスタイル
2026年早春号
YOKOHAMA HERITAGE
公益社団法人 横浜歴史資産調査会

今も息づく横浜の養蚕農家、旧藤本家住宅（横浜市鶴見区／横浜市認定歴史的建造物）　写真・米山淳一

シルクロード・ネットワーク協議会設立10周年

シルクロード・ネットワーク協議会
代表幹事団体・公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事　米山淳一

幕末、日米和親条約により下田、箱館が開港、さらに日米通商修好条約によって横浜（神奈川）、函館、新潟、長崎、兵庫（神戸）が開港場に指定され貿易がはじまり、鎖国は終焉となった。

なかでも横浜は、現在の地に港が開かれ、辺鄙な漁村から大きく脱皮し、国際貿易港として鉄道も整備され大いに発展した。輸出品目のなかでもダントツは、生糸。信州、群馬をはじめ全国から鉄道などで運ばれて来た生糸は品質に優れ、横浜の生糸検査所の高度な検査技術と相まって、欧米で高い評価を得た。生糸はまさに外貨獲得の花形商品となり、わが国の近代国家の躍進を支えたのである。

今日、この輝かしい歴史と文化の痕跡を横浜や全国各地にたどると多くの遺産が息づいていることに気がつく。横浜には、大さん橋、倉庫群、商社跡、山手西洋館群、三渓園、郊外の養蚕農家などさまざま。しかし横浜市民はかつて生糸で繁栄した先進地であったことをあまり知らない。ところが、群馬、信州をはじめとした全国各地では、横浜と結びついた歴史と文化に接することがしばしばある。信州の上田市上塩尻の旧家を訪ねた時のこと、この家は村の庄屋、蚕種業などで財を成した。敷地内には蚕種用の氷穴、土蔵があった。ご当主曰く、「横浜帝産倉庫の株券を今も持っている」と自慢げに話してくれた。横浜とつながっていたことが地域の誇りになっている。

また日野市では蚕糸試験場の建屋の保存の相談を受けた。陣内秀信氏（法政大学名誉教授）のお弟子さん上村耕平さんからだった。陣内研究室では、日野の歴史を生かしたまちづくり調査を展開。武蔵野崖線の地に蚕糸試験場の建屋一軒が残っている事を発見したのである。養蚕は盛んで、各地の拠点には国の試験場があった。その名残である。これを保存しようと自然に事が動き、市民運動が花開き、活動が始まった。

この運動を支援する意味もあり、シルクロード・ネットワーク協議会を立ち上げた。ちょうど10年前の2015年のことで、横浜で第一回のフォーラムを開催した。この時、力を合わせて歩み始めたのが、ＮＰＯ法人街・建築・文化再生集団（愛称ＲＡＣ）である。以来、フォーラムの開催を続け、絹文化の歴史と文化を生かしたまちづくり活動などを一緒に推進している。なお、その後、日野市は試験場の建屋を取得保存している。

さて、2025年度のシルクロード・ネットワーク協議会の開催地は、秩父市で2026年３月７・８日に開催する。秩父市は、現在２軒の養蚕農家が活動、約300キロの繭を生産している。毎年12月の秩父夜祭に秩父神社本殿に繭を奉納する儀式が行われる。秩父は、古くから養蚕業が盛んで、横浜の生糸商人とも結びつきが強いそうだ。

師走に行われる盛大な秩父夜祭は、豪華絢爛な屋台が引き回される迫力の祭典である。全国の伝統的な祭りは春、夏、秋の開催が定番と思っていた。しかし、秩父は寒く、多忙な師走に開催される。「なぜ？」一説には、横浜などの生糸商人をもてなす為と聞いた。秩父のフォーラムでその真意を知りたいと思う。

秩父の絹遺産

2025年度のシルクロード・ネットワークフォーラムは秩父市での開催が決まった。現在も繭の生産を続けるかつての養蚕王国は、独自の歴史と文化を育んできた。その結果が豊かな生活文化景観となり、秩父のシビックプライドの醸成に大いに寄与している。例えば、養蚕集落と歴史の町並み、伝統的な織物の秩父銘仙、芸術的な秩父夜祭など様々な文化遺産が街の彩となっている。

養蚕と秩父夜祭

秩父市文化財保護審議委員会委員長　柳　正博

「― 秋蚕仕舞うて麦まき終えて、秩父夜祭待つばかり―」これは『秩父音頭』の一節であるが、秩父地域の養蚕農家は秩父夜祭がひとつの収穫の目安だったことを示している。「―ああ麦実り桑茂り、桜は杉と咲き混じる ―」というくだりは、市内のある中学校の校歌の一部である。どちらも現在の光景とかけ離れてしまったが、かつて、市街地の郊外は一面の桑畑で、町なかでは、あちこちで大小の機屋からガッチャンガッチャンという作業の音が聞こえた。また、当時の秩父市役所の封筒には「セメントと織物の町」という文字が見え、この二つが市の基幹産業だったことを物語っている。稲作や畑作の耕地面積が少ない秩父地域では、貴重な収入源として養蚕が盛んな土地柄になったと思われる。

歴史をひもとくと、秩父の町では江戸時代から「絹大市」という取引が毎月１日と6日に行われ、秩父夜祭が一年の総決算だった。次に示す『武蔵野話』（文化12年、斎藤鶴磯著）にはその一端がよく表れ、これを読むと当時の秩父祭と絹大市の様子を窺うことができる。

「― 霜月朔日より六日まで毎日大宮の町に市たちて上毛、下毛、信濃、尾張、江戸諸國の商人いり込みて売買す、其繁栄なる事なかなか筆紙に述がたし、三日の夜神輿および屋臺など御旅所とて祠地より十町も南に小たかきところへ引あげんとして畑の中を蹈み通り挑灯をともしつれ、其群衆十町四方白晝のごとく實に譬んかたなし、小高き所へ屋臺を引上、神輿を御旅所の地へ居置、其前にて躍を催し神事を執行ひて後皆祠地へ引返す事なり、誠に善つくし美をつくし、かかる神事も珍しといふべし、しかれども屋臺をいたす事後世の事なるべけれども神徳の著しき、仰ぐべし崇むべし ―」

▲秩父神社に奉納された繭
▶神幸行列の先頭を行く大榊

祭り当日は、各地から商人が訪れて絹の売買が盛大に行われ、絹市を盛り上げるかの如く付け祭の屋台の曳行や曳き踊りが行われた。絹市の収益は、笠鉾や屋台の新調や修理に充て、付け祭の充実が図られたという。

時間を現在に切り替えると、祭りが佳境を迎える３日の夕刻、「お山」と呼ばれる御旅所へ向かう六基の笠鉾・屋台とともに、秩父神社を出発した神幸行列の先頭部に大榊が見える。春の御田植祭で水口に巻かれた龍神さまのわらは、社殿に安置される。そして夜祭を迎えると、龍神さまのわらを基台にし、紙垂を付けた大榊を立てるのである。これを民俗的視点でとらえると、春に武甲山から迎えて豊作を祈願した龍神さまに、秋の収穫を感謝し山にお還しするという筋書きが見えてくる。

御旅所での斎場祭が終わると、そこにいた観客が大榊の枝を奪い合い、大榊は見る見るうちに丸坊主になる。ここでいただいた榊の枝は各家の神棚に飾り、春蚕にこれで掃き立てを行うと蚕が当たるという伝承があり、先を争って枝を奪うのである。

4日は、秩父神社の蚕糸祭で、秩父地域の養蚕農家や関係者が集まり、その年の繭の収穫を感謝して神前に繭を奉納し、翌年の収穫を祈る。現在、秩父地域の養蚕農家は２軒に激減したが、ここ２年間、川越総合高校の生徒さんから繭が奉納され、今後が期待される。

日本三大曳山祭りに数えられる秩父夜祭の豪華な笠鉾、屋台と花火

「秩父銘仙」の普及に向けて、できること

FIND Chichibu　ちちぶシルク研究分科会分科会長
宮前昌美（秩父市議会議員）

養蚕から、糸繰り・整経・型紙作り・染め・織りを経て、デザインから加工まで、全てを一貫してひとつの地域内行っているのは、全国でも秩父地方だけと伺っています。ただ最盛期には7～8,000件と言われた養蚕農家は、現在秩父市内に1軒（影森養蚕所）のみ。昭和中期には街のあちこちから聞こえていた自動織機の“機音”も途絶え、銘仙製造を行っているのは市内に2件（逸見織物・新啓織物）、長瀞町に1軒（秩父織塾工房横山）となりました。

「FIND Chichibu（広域秩父産業連携フォーラム）」は、“産・官・学・金・福”の連携として、平成18年（2006）に「秩父地域定住自立圏構想」の一環としてスタートしました。

秩父地域一市四町（秩父市・小鹿野町・横瀬町・皆野町・長瀞町）の各自治体ほか、150社の地元企業が参加し、「地元企業の活性化・地域全体の振興を図る」目的で、10を超える各分科会がそれぞれに、自由な発想で活動をしています。

第６回街歩き　横瀬町東林寺

私たち“ちちぶシルク研究分科会”は、秩父銘仙の普及に加え、養蚕業や秩父太織（ふとり）も含めた、秩父地域の「絹文化の継承」を唱えて、2019年に活動を開始しました。

今まで銘仙関係者が一堂に会し、販売会や講演会を行ったことがなかったと伺い、コロナ禍明けからの本格的な活動として、各織元や秩父銘仙を使っての小物作成者のご協力いただきながら、現在（2025.11）までに4回の「秩父銘仙販売会」と、2回の「秩父銘仙講演会」を行ってきました。

更に「おばあちゃんの家のタンスに“秩父銘仙”があるのに、自分一人では着られない！」とのお声をいただき、昨年秋に「無料着付け教室（全5回）」を行ったところ、今度は「せっかく着られるようになったのだから、みんなで“街歩き”してみたい！」とのご要望に発展しました。

以降、“街歩き”の度に新規参加者が増え、秩父銘仙に興味を持っていただくだけでなく、和装の楽しみや、着物文化に対して興味を持ち、参加者それぞれが銘仙について勉強するなど、主催者の意図をはるかに超える発展をしてきています。ご要望が多かったため「無料着付け教室」は今年も開催致しました。

第４回秩父銘仙販売会

「秩父銘仙を着て“街歩き”を楽しもう！」として、こんな企画を行いました。

1. 秩父神社周辺散策＆“ニッポニア秩父門前町店・小池煙草店”見学（R6 10/26）
2. “秩父夜街・彩（いろどり）さんぽ”＆銘仙懇親会（R7 1/25）
3. 秩父の下町“寺内織物”見学 ＆ 全国大会優勝・現役高校生の津軽三味線ライブ（4/26）
4. 宮側町屋台引綱新調記念＆秩父文学祭コラボイベント（6/21）
5. 小鹿野町「路地スタ」学芸員による説明 ＆ 須崎旅館にて「茶話会」（10/25）
6. 横瀬町「東林寺」での“椅子座禅”＆本格的なお茶席と秩父音頭（11/15）

約1年間で6回の“街歩き”が実施され、来年は皆野町で行う準備も進めています。

■

大上段に構えることなく、皆さんのお声に応えられるよう地道な活動を続けてきました。おかげさまで2024年には「第14回地域再生大賞・優秀賞」を受賞し、6年前にこの活動を始めた頃は「このまま廃れてしまうのではないか…」と、懸念しかなかった秩父銘仙も徐々に人々の話題となり、「次回の“街歩き”には是非参加したい」との声も寄せられています。

秩父市としての「秩父銘仙・秩父織物利活用奨励金」（10万円以上の秩父銘仙の購入に際し、5万円の補助をおこなう）施策も、今年度で3年目となりました。毎年多くの方からお申し込みをいただいております。私たちの活動は「FIND Chichibu」という組織があってこそ。NPOを立ち上げることもなく、年間12万円の活動費の中で、のびのびと活動させていただいています。“街歩き”の参加費もほとんどを無料とし、“銘仙好きが気楽に集う”下地がようやく整ってきました。

スタートは“古銘仙”で良いと思っています。いろいろな方の銘仙を見ているうちに、必ず目が肥えてきて、今現在“秩父銘仙”を作っている織元さんのお話を聞いてみたくなります。そして購買に結び付くことで始めて、秩父銘仙は存続していきます。

私自身、秩父市議会の定例会開会日や、公的な催し物には必ず秩父銘仙を着るなど心ばかりのPRにも努め、これからも楽しみながら「“秩父銘仙”の普及」を続けていければと思っております。

◆第19回 横浜山手芸術祭参加◆
コンサートinヘリテイジ vol.11
ピアノが案内する横浜の歴史とまち 開催のお知らせ

●日時：2026年1月31日（土） 14：00～16：30（開場13：30）
●会場：ベーリック・ホール　横浜市中区山手町72
●出演：ピアノ演奏／後藤　泉　ナビゲーター／長谷川正英
●曲目：アイルランド民謡：サリーガーデン／グリーグ：ペールギュント第1組曲／ドビュッシー：版画／シューベルト：ピアノソナタ イ長調D664 ほか
●定員：50名（応募者多数の場合は抽選）
●参加費：3,000円（ヨコハマヘリテイジ会員は2,500円）
※当日受付時にお支払い下さい
●申込方法：お名前、住所、TEL/FAX番号、メールアドレス、ご参加人数、ご参加の方のお名前。なおヘリテイジ会員の方は会員番号。以上を明記のうえ、FAXまたは電子メールでお申込みください。
●申込締切：1月23日（金）
※締切後、ご参加いただける方にはメールまたはFAXでお知らせさせていただきます。
◎問合せ・参加申し込みは、下記にてお願いします。
メール：yh-info@yokohama-heritage.or.jp
TEL＆FAX　045-651-1730

横浜市 ベーリック・ホール

◆シルクロード・ネットワーク◆
秩父フォーラム2025「秩父の暮らしを支えてきた絹産業」開催のお知らせ

秩父は今も2軒の養蚕農家があり、織物工場が稼働し伝統の絹産業を守っています。秩父と横浜は絹産業を通じて深い関係にあります。今回のフォーラムでは、秩父の絹産業を介した生活文化の痕跡をたどるとともに、秩父らしい「歴史を生かしたまちづくり」の可能性を市民、行政、専門家などが集い探ります。ぜひ、ご参加ください。

開催延期

■日程：2026年3月7日（土）・8（日）
●3月7日（土） 見学会
集合場所：秩父鉄道秩父駅（予定）
集合時間：13時
見学先：秩父の歴史的街区、ちちぶ銘仙館、織物工場ほかを予定
情報交換会：18時～
●3月8日（日） フォーラム
会場：秩父神社参集殿
開会時間：10時
内容：開催地挨拶　秩父市長　清野和彦氏
開催地報告、講演、シルク会員による各地の報告など。
午後には、市長を交えシンポジウムをおこないます。
＊詳細は別途ご案内いたします。
宿泊については各自で手配お願いします。

秩父祭の屋台と花火

旧モーガン邸再建のためご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会（委員長水沼淑子）を開催し、再建計画、事業計画等をまとめ、事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。目標まであと少しです。引き続き皆様のご寄付を心よりお願い申し上げます。

（常務理事　米山淳一）

個人＝5,000円（一口）・団体・企業等＝100,000円（一口）
一口から何口でもありがたくお受けいたします。ご寄付いただいたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲出させていただきます。
・振込先：ゆうちょ銀行　口座番号：00270－4－124271
・加入者名：公益社団法人 横浜歴史資産調査会
※モーガン邸寄付と明記お願いします。

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございました。
（敬称略。10月22日～12月10日現在）
●旧モーガン邸再建のための寄付
幼児グループつくしんぼ 100.000　熊谷秋雄 100.000　多田真太郎 30.000
●歴史を生かしたまちづくりファンド
（株）テレパック 100.000　（株）星野リゾート 50.000

受付中！

■歴史を生かしたまちづくり相談室
老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテイジ事務局まで。
TEL・FAX　045－651－1730　E-MAIL　yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■歴史を生かしたまちづくりファンド
歴史的資産の保存活動推進のためにファンドを創設し、みなさまに寄付をお願いしています。寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。当公益社団への寄付は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局でご説明させていただきます。

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2026早春号』　■発行／2026年1月1日　公益社団法人横浜歴史資産調査会
■事務局／〒231-0012　横浜市中区相生町3-61　泰生ビル405
TEL・FAX／045-651-1730　E-MAIL／yh-info@yokohama-heritage.or.jp
ホームページ http://www.yokohama-heritage.or.jp／